

令和 2 年度 第 4 回宍粟市環境審議会 議事録

日時：令和 3 年 3 月 9 日（火）午後 2 時開催

場所：宍粟市防災センター5 階 大ホール

1. 議事

(1) 市民等意識調査結果

(2) 骨子案について

(3) 今後のスケジュール等

2. 議事内容

開会

第 4 回宍粟市環境審議会の開催が宣言された。

(1) 市民等意識調査結果について

【委託事業者】資料についての説明。

(一同より異議はなく、了承)

(2) 骨子案について

【事務局】資料についての説明。

【会長】本来であれば、今年度中に「宍粟市環境基本計画（第 3 次）」を策定する予定であったが、「宍粟市総合計画」との関係で、策定を完了することができなかった。

また、来年度から担当課が移管されるため、ある程度の検討の余地を残しつつ、策定を行ってきたいとの理由から骨子という形式で、今年度の審議を終えることになった。そうしたことも留意いただきながら、基本理念や環境像などについてのご意見をいただければと思う。

【委員】次期計画の基本理念を『豊かな森林を活用した環境づくり』としているが、私が住む地域の山は、山の手入れが行き届いておらず、荒れている。その結果、森林が保持するかん養機能の低下、鳥獣による被害が発生している。こうした状況を放置しては、豊かな森林とはならないので、林業に対して、市としてより一層力を入れていただきたいと考えている。

市には、豊富な森林があり、景観としてもきれいだと思うが、それも手入れが行き届いてのことだと考えている。一方で、宍粟市の山を外国資本である中国企業が水源の確保のために購入しに来たという話も聞いたことがある。こうした状況を放置しておいて、本当に豊かと謳って良いのだろうかと疑問に思う。

【事務局】次期計画の基本理念である『豊かな森林を活用した環境づくり』は、「宍粟市総合計画」で掲げているテーマである。そのため、次期計画においても、「宍粟市総合計画」と歩調を合わせて取り組みを進めていくため、理念として掲げた。

ご意見については、次期計画を定め、実施計画に盛り込んでいく内容だと思われるので、基本的な方針は計画の前提として謳っていきたいと考えている。

また、来年度以降、担当課が現在の環境課から森林環境課に移管されれば、森林に関する取り組みは進めやすくなるのではないかと考えている。

【会長】今後、森林をどのように扱っていくのかという問いについては、担当課の移管後、具体化されていくのではないかと。

【委員】骨子案を見ると、国が表明した 2050 カーボンニュートラルに関連した取り組みが出てきていない。市の地域特性から見れば、豊かな森林資源があり、二酸化炭素の吸収源として果たす役割は大きいと思う。そうしたことを次期計画には大々的に盛り込んだ方が良いと思う。

また、市は、森林が豊富に存在している一方で、街中に緑が少ないことと、山自体に輝きがないと感じている。市として、森林整備に対して重点的に予算を投入し、まち全体で、森林の保全と活用に関する取り組みを行うことで、環境にやさしい自治体を目指していくこと、国を動かしていくことを打ち出しても良いのではないかと考えている。

【事務局】今後、本骨子案を肉付けしていく中で、国と歩調を合わせながら、市としても 2050 カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを盛り込んでいく。

【会長】次期計画の基本理念は、森林をキーワードとして、現行計画と比べても現実に見合った目標になったと思う。基本理念と環境像については、了承いただいたということで、来年度以降、基本理念に沿った取り組みを盛り込み、新たな計画としてまとめていただきたい。

【委員】3 つ目の基本方針である『資源が循環するまちづくり』には、マイクロプラスチックに関する取り組みが出てきていないので、盛り込んでいただきたい。

【事務局】マイクロプラスチックを含む廃プラスチック類に関する取り組みを記載していく。

【委員】来年度の検討体制について、森林環境課だけで進めていくことは、扱う内容の広さから見ても難しいのではないかと。庁内で横断的に検討していくことはできないか。

【事務局】今回の骨子案については、庁内の政策会議と呼ばれる各所管が集まる場において合意形成に努めた。今後もそうした会議体を活用しつつ、検討を行うと同時に、連携を図っていく。

【委員】基本理念を『豊かな森林を活用した環境づくり』としたこと、担当課を移管したことの意味合いは、市として森林に関する取り組みを強化していくことの意味表示だと受け取れるので、今後に期待している。

【事務局】森林に関する取り組みも強化していくが、基本計画としての性質を見失うことなく、様々な内容を扱う必要があるため、その方針は維持していく。

同時に、それによって計画で取り扱う内容も広くなることから実施計画が必要となってくる。策定後の 5 年で、どのように取り組みを進めていくのか、策定後の進め方などについても意見をいただければと思う。

【委員】マイクロプラスチックなど、世界的な環境問題については、学校における教育の成果もあって子どもたちは問題意識を持っている。こうした問題については、大人たちに対してもあらゆる手段を使い、日常生活の場面から取り組みを浸透させていく必要がある。

市の広報に記載するだけでなく、しそチャンネルをはじめ、自治会の回覧板等を活用して周知を行っていくなど、手法を検討していく必要がある。

【会長】市は、面積も広いので、市全体で取り組もうと思うと大変な労力を必要とする。例えば、各自治会等に働きかけて取り組みを発展させていくなど、手法はあると思う。労力をかけずに長期的に回していく仕組みづくりを行っていくことも必要ではないか。

【委員】今回実施したアンケート調査の結果が、宍粟市と市民が取り組みを行った成果が反映されているのかがわかると尚良い。

【事務局】市民の方の協力もあったと思う。ごみに関する取り組みなどについては、市としても市民の方と協働して取り組みを進めてきた。そうした結果が現れていると良いと思う。

【委員】実施計画を開始する際には、今回実施したアンケート調査の結果を活用し、どの数値の向上を目指していくのかを明確にして取り組んでいく必要がある。その値を基準としながら、市民が取り組みを行った結果がどうであったか。数値が増減した理由の把握に努めるなど、進捗管理に努め、改善を図っていただければと思う。

【事務局】実施計画の立案段階においては、そうしたことも踏まえて検討させていただく。

【委託事業者】アンケート調査結果の市民、小学生、高校生の意識の比較を見ると、市民は耕作放棄地・空き家など、身近な環境問題に対する意識は高くなっているが、外来生物の増加については、7.2%と全体の1割に満たない。しかし、小学生は30.1%、高校生は22.1%の方が外来生物の増加に関心を占めている。

市では市内に在住する小学生を対象として、「土曜なんでも探検隊」として生物調査や自然体験等を行っており、普段から生物とふれあうことで、市民の方よりも意識が養われていると考えられる。

ごみに関する取り組みなどについては、事務局から市民の方と協働して取り組みを進めてきたとの説明があったが、市の内部において足りないと感じるのであれば、施策を強化するなり、新たな取り組みを実施していくなど、対策を検討の上、実行に移していく必要がある。

【会長】今回のアンケート調査結果を市としてどのように捉え、今後、どう取り組みを実施していくか。非常に重要なことだと思う。結果を受けて、市として取り組みが足りないとの判断になるのであれば、もう一步、踏み込んだ取り組みをお願いしたい。

(3) 今後のスケジュール等について

【事務局】資料についての説明。

【会長】今年度は、骨子までを作り上げ、来年度に肉付けを行い、計画を策定していくといった流れである。

【委員】若い世代は環境分野に関心を持っている事実もあるので、例えば、高校生にパブリックコメントの一環として計画素案に対する意見を聴取するなど、若い世代の声を吸い上げるような手法は検討できないか。

【事務局】パブリックコメントの性質上、広く一般の方にご意見を伺っていくことが求められる。

授業の時間を割いて意見を募ることは難しいが、学校の協力があれば、事前にアナウンスを行うなど、周知していくことは可能かもしれない。

【委員】若い世代を巻き込んでいくことが可能となるような手法を検討いただければと思う。

【会長】市として、計画に関するご意見をパブリックコメントで募集していることを校内の掲示板等を活用し、周知していくことは可能かもしれない。

【委員】小学生については、施策に関する子どもたちの意見をそのまま計画に反映することはできない。市の取り組みを広く周知していくといった意味合いであれば、良いことだと思う。

児童たちは、アンケート調査の結果にもあるように、世界的な問題には、目を向けているが、身近な内容については、意識が足りない。こうしたアンケート調査の結果も有効に活用していけば、効果的な周知につながるのではないかと考えている。

【委員】身近な問題を題材にして、周知していけば、意識として浸透していくのではないかとと思う。

【事務局】いただいた意見を参考に、学校の負担とならないよう、可能な範囲で検討する。

【委員】子どもたちの意見を吸い上げる手法として、環境学習の一環で、子ども環境会議などを開催し、話し合いの場を設けることも想定される。興味のある子どもたちも居るので、参考までに検討いただければと思う。

【事務局】パブリックコメントによって、計画に対する一般の方の意見を広く伺っていくが、子どもたちを含む若い世代の意見を吸い上げていくことは重要だと思うので、検討させていただく。

【会長】各学校の先生方の意見も参考にしながら、周知を行っていくことで、幼い頃から市政に参加することの大切さも伝えていただきたい。

【事務局】以上をもって閉会とする。